

平成 30 年度学生とシニアの対話会イン京都女子大学最終報告書

報告者 大野 崇



I. 日時：平成 30 年 6 月 23 日(土)、13:00～17:30

II. 場所：京都女子大学 S校舎 S207 教室

III. 出席者（敬称略）：

（京都女子大） 水野義之教授（現代社会学部）、

（学生） 4 回生 4 名（現代社会学部）

（シニア） 8 名 早瀬佑一、天野治、石川博久、針山日出夫、*中村 威、岡本弘信、
*瀧上浩幸（日本電機工業会）、大野崇 *オブザーバー

IV. タイムスケジュール

13:00～13:15 開会挨拶（京都女子大（水野教授）、SNW（早瀬佑一氏）、シニア紹介（大野 崇））

13:15～14:05 基調講演 I 「人口、エネルギーと温暖化問題～現実を見つめ将来を考える～」(針山日出夫氏)

14:05～15:05 基調講演 II 「高レベル放射性廃棄物～地層処分の概念と安全確保の考え方～」(石川博久氏)

15:05～15:15 休憩

15:15～17:30 学生とシニアとの対話（基調講演に基づいて学生とシニアとの自由意見交換）

17:30～17:40 講評(天野治氏)

18:10～ 懇親会(学生(3名)、先生、シニア(8名))

v. 水野教授挨拶

関西に暮らしていると、原子力に関しての情報はマスメディアの情報に限られてしまい、フェアな判断が出来にくい状況にある。そこで、今回は、エネルギー問題を俯瞰し現実を見つめ将来どうあるべきか、高レベル廃棄物の地層処分題、について講演を依頼した。難しい話も3度目には理解できるようになる。何度も聞くのが肝要。しっかり勉強して欲しい。

VI. SNW 開会挨拶(SNW 早瀬佑一氏)

- ・京都女子大との対話会に初めて参加します。若い皆さんとの対話を楽しみに東京から来ました。まず、キャンパスに足を踏み入れて、何処も整理整頓が行き届いているとの印象を強く持ちました。さすが歴史のある女子大です。
- ・皆さんが、以前より原子力発電所見学や授業を通じ、エネルギー、原子力、環境について幅広く勉強をされていると伺っています。今日は、参加学生が予定より少ないのが残念ですが、授業では聞けないような日頃の疑問、質問を遠慮なくぶつけてください。経験豊富なシニアが揃っているので、どんなことでも対応します。
- ・皆さんにもシニアにも有意義な時間となるよう進めましょう。

VII. 基調講演

(1) 基調講演Ⅰ「人口、エネルギーと温暖化問題～現実を見つめ将来を考える～」(針山日出夫氏)

- ・日本における人口減少と高齢化進展、フランスの少子化対策(婚外子の急増、産むみたい環境整備)
- ・世界のエネルギー事情と日本の選択技と論点
- ・地球温暖化問題とパリ協定

について幅広く俯瞰し分かり易く説明。

(2) 基調講演Ⅱ「高レベル放射性廃棄物～地層処分の概念と安全確保の考え方～」(石川博久氏)

- ・高レベル放射性廃棄物の処分方法で地層処分が何故選ばれたか、地層処分では何が安全問題となりどういう技術対応がなされているか、どのように地下深くに処分した廃棄物を扱い安全性を確認するか

について分かり易く説明。

VIII. 対話会

就職活動時期と重なり参加学生が少数にとどまったことから、基調講演内容について学生が質問をしそれについて、学生・シニア・先生が相互に自由に意見を交換するトライアングル対話形式をとった。日頃の水野先生の指導よろしく学生は屈託なく疑問

や思うところを臆するところなく述べ、対話に相互に噛み合った熱のこもった実のある対話がなされた。

主な質疑応答は以下の通り。(ローマ字は学生。➡シニア、先生回答)

基調講演 I

M: 開沼先生の授業を受け福島事故での放射線や食物は安全でおびえる必要はなく、原発を止めると別なリスクが生じ原発のリスクは高くないことは分かったが、聞かなかったら原発はいらないという意見になっていただろう。

因みに母親は風評被害通りの考えを持っている。

➡(水野先生) 1つのリスクにのみ気を取られそのみ危険視するのは物の見方を誤る。DDT が危険だとして禁止した結果、発展途上国のマラリヤによる死亡者が増加し、2000 年代には室内での DDT 使用が復活した。

Y: 止めた時のリスクもあるのに、原子力のリスクのみ取り上げられ理由を、感情的・感覚的な「母性原理」意識の強い特殊な社会のなせる業ということであるが自分自身はそうとは思っていない。何故そう言えるのか。

➡欧米の資料は厚い。論理的・合理的に説明しようとするとうとう厚くなる。

➡日本の大学は文系 70%、理系 30%。中国はその逆。文系が多いのも論理的でない背景にあるのではないか。

H: フランスの少子化対策に婚外子急増があるが日本にはなじまない。世の中の考えが変わらないと難しい。

➡日本では家庭で親子の話し合いがない。広い価値観が生まれない。

➡最近では新聞離れをしているが、新聞を読んで欲しい。広い見方の醸成に役立つ。

S: 興味がないとその授業は受けない。自分は福島での事故に興味はなかったがマスクが恐怖心を煽り立てるので逆に原発を考えるようになった。日頃から原子力の話を聞いていれば見方が違ってくる。知識のない人は怖いという話をそのまま受け入れる。教育は必要。

基調講演 II

M: 地層処分ではテロ対策を考慮しているのか

Y: 深い地層では地下水の流れはなく、ガラス固化体そのものも水に溶けにくいとの説明であるが、安全評価ではガラス固化体が水につかった状態で溶けるということを想定している。ガラス固化体は水に溶けるのか。それとも最悪ケースを想定したものか。

➡最悪ケースを想定して評価している。オーバーパックが千年で全て壊れ、ガラス固化体が溶け出るという想定で地上への移動ルートを考え被ばく量を計算している。

H: 安全評価ではガラス固化体が地下水に溶け出し断層破碎帯から帯水層へ漏出したとして被ばく量を評価しているが規制はそこまで求めているのか。しかも厳し安全基準への適合を求めている。規制は絶対安全を求めているのか。

➡地層処分の規制基準をどうするか議論はまだ行われていない。現在、レベルの低い放射性物質の中深度処分の議論がなされた後となる。

S: 科学特性マップの説明会にはどういう人が参加して反対の人の反応は。

➡参加者は大都市では多いが、地方では 10 名程度と少ない。しかも反対派か推進派で一般市民の参加がない。発言は反対派が多く原発をやめ

れば廃棄物問題はなくなるというのが主張でマスコミはそれを取り上げる。

S: 専門家の参加は。若い人の参加は？映像で説明会の様子は見られないのか。

⇒専門家も若い人の参加はほとんどない。映像はNUMOのHPで見ることができる。

S: 規制は優先順位を決めて行うということであるがいつ頃動き出すのか。

(先生): 学術会議はゼロから見直すといっているが永久地層保管でなく取出しシナリオも含めるということか。

IX. 講評・閉会挨拶 (SNW 天野治氏)

京都女子大 水野先生のところでの対話集会は2012年より毎年開催され、今回で7回目となります。水野先生には長い間本当にお世話になりました。

去年は3年生15名が参加され、今回は4年生4名が参加され、3名が水野先生のゼミの学生で、1名は水野先生の特別講義の学生でした。参加された4名の学生を中心にフランクに今回の対話を行いました。簡単に内容を振り返りたいと存じます。

針山日出夫講師の「人口、エネルギーと温暖化問題」について、学生の意見は

- ・原子力発電所を再稼働するリスクと止め置いたときに発生するリスク、たとえば地球温暖化や電気料金の上昇がある。他のリスクに気が付き、知識を得る必要があるのではないかと。本件については、大学のセミ、家庭での対話、スマホの活用などの有用性が対話で提案された。この対話の輪を広げることも有用な方法である。

別の学生の意見は

- ・選挙権が18歳に引き下げられ、原子力発電を学生が、学生にわかりやすく伝える必要性を指摘され、それに取り組んで行きたいとの発言があった。ぜひ、SNWでも対話会などで引き続き応援していきたい。

石川義久講師の「放射性物質地層処分」について、学生の意見は

- ・幅広く社会にこの件を知らしめることが大事で、「科学的特性マップ説明会」が重要ですが、現在の我が国の取組状況について質問があった。本件については、説明会では、実施側の実施能力を示すことはできているが、合わせて規制側の規制方針がこの場で示されると社会の議論が深まる、SNWでも引き続き議論が深まるように取り組んでいきたい。学生とシニアの対話は、シニアにとっても、学生からの意見は刺激になるし、講師の先生方が、1か月以上かけて、資料作成をしている。その準備がシニアの活動のブラシアップになっている。改めて、とりまとめの先生および参加していただいた学生諸君に御礼申し上げたい。

x. シニアの感想

(石川)

週末の土曜日にもかかわらず準備いただいた水野教授および参加いただいた学生の皆さんに感謝します。

今回初めて対話会に参加させていただいたが、参加人数が予定より少ないにもかかわらず各講義及びその後の議論で十分な意見交換ができたのではないと思う。

これまでの知識では原子力への不安が先行して、原子力がない場合のリスクについて認識が不十分だったが対話会を通じてよくわかったとの意見で、今回の対話会の意義があ

ったのではないと思う。地層処分では、科学的特性マップを知らないということで、この1年余り新聞などのメディアでもかなり取り上げられ、水野教授のゼミをとられている学生でも認識されていないということで、情報を広めることの難しさを痛感した。教育という意味では、現在の若い人は中学高校で放射線や原子力の教育を受けていないためその知識に乏しいが、新学習指導要領で放射線や原子力も取り入れられた。正しい知識を得るための教育の重要性についても学生側からの意見としてあったことは大きいと思う。

この対話会が最後ということで残念ではあるが、水野教授のゼミの学生が少しでも原子力の知識を広めていくことに貢献されることを期待したい。

(針山)

今回、5回連続で京女対話会に参加となる。その都度水野先生の対話会に対する真摯な姿勢と学生達に最高の機会を与えたいとの熱意を感じてきた。学生達は毎回休日にもかかわらず自主参加してくれる。この対話会風景は京女・現代社会学部の一つの景色となって定着してきていることが感じられる。残念乍ら今回が最後になるとのお話があり、一つの景色が消えてゆくことになるのであろう。

しかし、長らく続けていただいた対話会の実績は双方にとってこれからの肥やしになっていくことを期待したい。我々SNWにとっては水野先生のご尽力のお蔭で立派な足跡を残し、それが我々の資産となっていることに感謝申し上げたい。

京都女子大の益々の隆盛を祈念申し上げる。

(早瀬)

- ・ 京都女子大の対話会に初めて参加した。
- ・ 参加学生が4名と少ないのが残念だったが、学生たちは、原子力発電所（関電高浜原子力発電所）見学や特別講義（水野義之教授、開沼博立命館大准教授）を通じ、エネルギー、原子力、環境について幅広く勉強をしていて、相当な知識、問題意識を持っている。男子学生よりはるかに熱心、真面目との印象。
- ・ 対話は、原子力発電稼働のリスクと稼働しないリスク、マスメディアの報道姿勢、小学校段階からの教育、高レベル放射性廃棄物処分についての規制委員会の安全基準と審査、NUMO全国説明会等を論点とし、有意義な質疑応答、意見交換であった。
- ・ 対話会開催は今回が最後となるのは、残念である。

(岡本)

第2回の対話会に参加してから2回目の参加ですが、内容の豊富な基調講演を熱心に聞く様子や意見を積極的に述べようとする姿勢には、前回同様感心しました。水野先生のゼミや特別講師の講義を受け、原子力施設の見学なども経験して、理工系の考え方や課題展開などを良く捉えているように思いました。

エネルギーや資源を上手に使い、環境への配慮を尽くすことこそ、次の時代を荷う自分自身の生活を、さらに充実させていくことになるでしょう。理工系の者の果たすべき役割が大きいのではあるが、文科系の学生も自分ならどうするか、自分たちならどうする

か、を考えることを続けていき、いろいろと経験してきた筈のシニアの声に、今後も耳を傾けるようにして欲しい。

(大野)

昨年に引き続き世話役を仰せつかった。学生数が少ないのは残念であったが、屈託がなく若い女子学生に元気をもらった。全員水野先生のゼミの学生或いは特別講義として受講しており、ゼミにて基調講演資料に基づいて講義を行い、学生の質問・疑問を引き出し理解を深めさせようとする水野先生の熱心なご指導に敬服するとともにそのお陰で活発で充実した対話会が行えたことに感謝を申し上げたい。学生は、皆優秀であり女学生特有の真面目さと華やかさがあり楽しい対話会であった。これらの女学生が社会人となり、母親となっても事実を確実に把握し、徒に原子力に反対することのない将来を作って欲しいと願うところである。

今回で最後の対話会となり残念であるが水野先生にはこうした対話会という機会をこれまでご提供頂き本当にありがとうございました。また、これまでご参加いただいた学生諸君が物事を多面的に捉えて客観的に判断するように少しでもなればうれしい限りです。

以上